

育成を目指す資質・能力

自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて伝え合う活動を通して、一人一人の違いを認めスピードを維持した走りで、より速くハードルを走り越すことができるようにする。

ICT活用のポイント

自己の運動の行い方を撮影し、確認することによる運動における自己調整力の育成・スタディオグによる学習意欲の向上と思考力の育成

【つかむ】

第2ハードルまでをより速く走るための運動のポイントを考える。

第2ハードルまでをより速く走り越すポイントを知り、自分の課題を見付けよう。

【追究する】

自己の運動の行い方を確認し、自己課題を見付け、解決するための運動のポイントを考える。

【まとめる】

自己の課題と本時の取組の成果を踏まえ、より速く走り越すための自己課題について自己の運動を振り返る。

事例の概要

- 前時までの学習活動を振り返ることができるようにし、運動のポイントの確認を行いながら、本時の学習課題について把握できるようにする。
- 前時までの運動のポイントを踏まえ、自分で運動に取り組みせたり、ハードリングのよいモデルを観察させたりすることで、本時のめあてを達成するための運動のポイントを理解できるようにする。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 主運動において、仲間同士で動画を撮影し合えるようにし、自己の運動の行い方を確認させることで、本時のめあてを達成するための自己課題を見付けられるようにする。

【事例におけるICT活用の場面②】

- より速く走り越すため自己課題や、課題解決のための運動の行い方等の振り返りを毎時間入力させ、学習支援ソフトを通して提出させる。

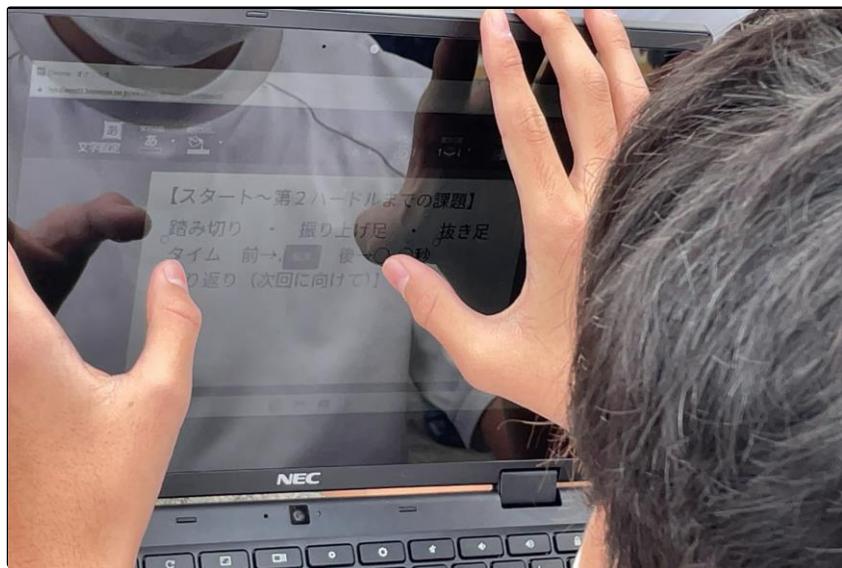
【保健体育・中3・「陸上競技 ハードル走」】 ②

【事例におけるICT活用の場面①】



- ・第1ハードルから第2ハードルまでをより速く走り越すための自己や相手の課題を見付けるために、ペアで動画を撮影し合った。撮影場所を指定することで、生徒に考えさせることが何かを明確にできるようにした。
- ・撮影する時間については、始まりを統一した。撮影回数に関しては、生徒それぞれの必要に応じて決定させることで、生徒が主体的に活動できるようにした。
- ・タブレットPCには、お手本動画を全員に保存させておくことで、いつでも見返せるようにしていた。生徒は、お手本動画と自己や相手の運動を比較すること等で、課題を見いだしていた。

【事例におけるICT活用の場面②】



- ・授業前の自己課題と本時の取り組み・成果を踏まえ、ハードルをより速く走り越すための自分の課題について、自己の運動を振り返り学習支援ソフトに記入させた。
- ・自己課題については、「踏切位置」「振り上げ足」「抜き足」と3つに焦点化し、選択できるようにすることで記入時間を短縮していた。また、本時に測定した2回の記録を入力できるようにすることで、本時の成果や課題を考えられるようにし、次時への目標をもたせることができるようにしていた。
- ・記入できた生徒同士で書いたことを見せ合い、気づきを共有できる時間も設けた。

【活用したソフトや機能】文書作成ソフト・学習支援ソフト（データ提出・受信）